

敬天愛人

下三桁の大切さ

あれは、私が入社して間もない頃、当社がまだ主力商品「味どららの里」を開発する前に、前職の顧問先様の紹介で味噌の大きな卸問屋様へセールスに行った際のことです。そのご主人に「キロいくらで入れてくれるの?」と聞かれた私は、何の思慮もなく円単位で答えたところ、ご主人に下三桁(銭厘)まで問われ、その場でぐには答えられませんでした。問屋のご主人に「取引数量が大きくなればなるほど下三桁が大事になってくるんだよ」と教わる。ことになり、私はまだ「商人」になっていないことを深く反省させられたのでした。

敬天愛人

その後、帰秋するため上野で時間待ちをしているとき、上野には西郷隆盛の銅像があることを思い出しました。「西郷さん」と対面しながら思い悩んでいたとき、ふつと「彼の遺言集を買ってみよう」と思いました。偉人の遺言は一生の英知を短いことばに凝縮して覚えやすくなっているはずと、近くの本屋へ行って買求めた本の中で「敬天愛人」という言葉が目が留まり

ました。言葉の意味はわかるような気がするのですが、実行するとなると、どうすればよいかわからず、「どう実行するのか? どうすればその意とする実行ができるのか?」と毎日毎日自分に問う日々が続きました。

ある日、「味どららの里」が売れず、



東北醤油の主力商品

銀行さんには「ご融資は難しいですよ」といわれ、会社では「こんな物作るから会社がだめになるんだ」といわれ、「すべては俺の責任なんだ、誰の責任でもない、俺の責任なんだ、死んでお詫びしなきゃ」と思い、

一晩泣き明かしました。泣いたからといって結果が変わるわけでもなく、明け方近くにあつと我に返り、「もう一度だけ、挑戦してみよう!!」と覚悟を決めました。

西郷さんの声

深夜、工場の中で座禅をし、一心に自らに問いました。「どうしたらよい!? どうしたらよい!?」。そのときです、西郷さんの音のない声が聞こえてきたのは!! その声は心の中に聞こえてきて、

観えるんです!! 行動を観させてくれるんです!! それで「全てを天に任せよ。己は今日一日にただただ最善を尽くすのみ。人為は天意にかなわず。人為を起こすな。人為を起こせば天意が隠れる。天の下さる縁を悟れ。それがわかるまで動くな」という声がすらすらと出てきました。全ての意味はわかりませんので、「全てを天に任せよ。己は今日一日にただただ最善を尽くすのみ」と理解して取り組むことにしました。

それから「買ってほしい」、「売りたい」と思う気持ちも忘れ、一所懸命、製品のよさをPRしました。ただそれだけです。そうすると、不思議なことが起きました。売れるわ、売れるわ、その直前までどこも在庫の山だったのに。この結果をいただき、「次、どうすればよい!? どうすればよい!?!」と毎日深夜、工場内で座禅、朝は神仏合祀棚の前での長い問答を繰り返して、ようやく人為(意図して起こす意)と天意(意図せずして結果となる御導きの意)の区別を知りました。最善を尽くすときに大事なものは、絶えず明るく、楽しくなる方向へ自分を導くこと、絶対に嘘をつかない、自分に聞こえることを成すこと。そして最後に、腑に落ちたのが「敬天」の敬という語意でした。

全て私の独断と偏見の解釈ですが、「天を信ずること、信じること」それが敬ずるといふことなんだと思ひ悟りました。信じざるは難しいですね、我があるから。我と他が一对になったとき、我がなくなるんです!! 西郷さんのあの堂々とした行動、下級武士出身でありながらの大政奉還、王政復古、廃藩置県の実行、西南戦争での武士の消滅、そして四民平等での結婚の自由と職業選択の自由の世を私達に作ってくださったあの悠然とした生き方、死に方は、まさしく「愛人」の実行なんです。この「愛人」とは「己れを愛するがごとく他人を愛せよ」という意味なのだそうです。「自分がしてもらいたい」と思うことを他人様にしたり、自分がして欲しくないことを他人様にしたりはいいけない。

「敬天愛人」、この言葉を私の基本理念にさせていただいております。

東北醤油株式会社

代表取締役社長

佐竹 宏明 (さたけ ひろあき)



会社概要

本社 秋田県大仙市神宮寺字本郷野102
 設立 大正9年
 事業内容 めんつゆ、料理つゆ等の調味料の製造販売、味噌、醤油、味噌の製造販売、こうじをベースにした三五八、甘酒の製造販売
 電話 0187-72-2020
 F A X 0187-72-3215
 ホームページ http://www.touhoku-syoyuu.co.jp/